第１回第２次宇陀市総合計画審議会

平成 29 年 12 月 21 日

1. 開会　１４：００

事務局：定刻が参りましたので、ただいまから第１回宇陀市総合計画審議会を開催致します。本日は、皆様方には公私とも何かとご多用の中、ご出席賜り誠にありがとうございます。
私は、事務局を担当しております、企画課の山口です。どうぞよろしくお願いいたします。会長と副会長の選出、諮問までの間におきまして、進行役を務めさせていただきます。
本日の出席委員は 18 名で、宇陀市総合計画条例第１１条第３項に基づき、この審議会が成立していることをご報告申し上げます。
また、大変恐縮ではございますが、宇陀市総合計画条例第９条の規定により、皆様を１２月１日付で市長より審議会の委員に委嘱させていただきました。今回は、時間の関係上、委嘱状をお手元の封筒に配布させて頂いておりますので、よろしくお願いいたします。なお、本審議会の最中に、審議、諮問の風景の写真撮影を行うことがありますが、何卒ご了承いただきますようお願いいたします。また、本審議会において、傍聴者がおられる場合は、宇陀市総合計画審議会傍聴要綱に基づき、傍聴いただくことになります。また、会議録等も、市のホームページで公開させていただきますので、よろしくお願いいたします。

2. 市長挨拶

竹内市長：皆さま、改めまして、こんにちは。日頃から、行政に関して多方面にわたり、ご支援を賜り、ありがとうございます。本日、この総合計画審議会の委員にご就任いただき、本当にありがとうございます。よろしくお願い申し上げます。

昨日、私の任期について発表をして、次のようなお話をさせていただきました。私は市長の職を離れるわけですが、宇陀市の発展は永遠であろうかと思います。この総合計画に基づき、宇陀市には懸案・課題があるわけですが、重要な施策については、一定の道筋や方向性を示すことができたと自負しています。そして、継続されるべき事業、継続した方がいい事業もたくさんありますが、事業そのものを新たな視点で、より大きな成果・効果が出るようにしていただきたいと念願しております。

後期基本計画の最初に、宇陀市の合併以降 8 年目を迎え、いろいろと展開していき、その方向性も示されたと思っております。この総合計画に記載されていない、負の遺産もほぼ清算できたのではないかと理解しております。そんなことも含めて、宇陀市民が自信を持って、夢と希望を抱きながら宇陀市に住んでいけるような素晴らしい計画、そして、施策の一助になればと思っております。皆さまから、忌憚のないご意見を賜り、答申をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。以上です。

3. 委員の紹介：山口課長より紹介

4. 会長・副会長の選任

会長に伊藤忠通（奈良県立大学）、副会長に松塚幾善（宇陀市商工会、宇陀市観光協会）を選任

4-1. 会長挨拶

伊藤会長：ご紹介いただいたように、私は経済、特に財政が専門で、中でも地方財政が中心です。県内のいくつかの市町村に関して、総合計画等のさまざまな分野で関わっているので、多少の知識は持ち合わせています。

宇陀市においても、まち・ひと・しごと総合戦略の策定にあたり、委員も務めさせていただいております。そういうこともあり、市民ではないですが、宇陀市のことは存じ上げているため、皆さまと一緒に総合計画を作っていくことができると思っております。また、松塚副会長におかれても一緒に、まち・ひと・しごとの方でも一緒にさせていただいており、特に地元の代表的な役割を果たしておられるため、力強く思っております。

今回は、いろんな分野からたくさんの委員がご就任され、市民からも 3 名の方に代表して委員になっていただいているので、積極的に建設的なご意見を賜ればと思っております。今後、この審議会を進めてまいりますが、どうぞご協力のほど、よろしくお願いいたします。挨拶は以上とさせていただきます。

5. 諮問

竹内市長から伊藤会長に諮問書を手渡す

6. 総合計画策定の概要及び策定の背景について

〈事務局より説明〉

7. 第 2 次宇陀市総合計画策定の進め方について

〈事務局より説明〉

伊藤会長（奈良県立大学）：これまでの説明の内容について、何か質問やご意見等があれば、お願いいたします。特になければ、後ほど皆さまから、ご意見を賜りたいと思います。では、引き続き、宇陀市の現況について、それから、市民・職員参画の取組みの実施状況について、説明をお願いします。

8. 宇陀市の現況について

〈事務局より説明〉

9. 市民・職員参画の取組みの実施状況について

〈事務局より説明〉

伊藤会長（奈良県立大学）：資料の分量がたいへん多いので、委員の皆さまもすぐに把握はできないとは思いますが、宇陀市の現況、市民・職員参画の取組みの実施状況について、何かご質問があれば、お願いいたします。特になければ、今日は初めての会合で、さまざまな分野から多く集まっていただいているので、委員の皆さまから一言ずつ、宇陀市の第 2 次総合計画について、特に市民

参加の委員の方々は、強い思いをお持ちかと思うので、ご発言をお願いいたします。

第 2 次総合計画は、これから 12 年、宇陀市のまちづくりの最上位計画として、非常に重要なものになるため、皆さまのご意見を賜ればと思います。僭越ではございますが、私から指名させていただきます。一言ずつ、思いを述べていただければと思います。たいへん失礼ですが、席順でお願いいたします。

松塚副会長（宇陀市商工会、宇陀市観光協会）：宇陀市の総合計画については、第 1 次にも参加しております。市ではいろいろと進んでいますが、人口減少が問題となってきています。

ただ、都市計画の中に、いろいろと問題点がある場合もあります。産業振興と言いながらも進んでいないのが、宇陀市の現状です。というのは、工業地帯が道のない場所に指定されることもあるわけです。5 年単位の計画が、市長の任期に合わせて 4 年単位に変わり、12 年計画になりましたが、総合計画はどういう立場、位置づけなのか、聞きたいのですが。

伊藤会長（奈良県立大学）：位置づけは、最上位計画です。

松塚副会長（宇陀市商工会、宇陀市観光協会）：この計画の中に含まれていなければ、施策は実施できないのですか。

伊藤会長（奈良県立大学）：そういう意味ではありません。

松塚副会長（宇陀市商工会、宇陀市観光協会）：第 1 次計画のときは、そうでしたが、第 2 次計画では、どうなりますか。

事務局：今、会長から話があったとおり、宇陀市総合計画は、最上位計画になります。副会長が言われたように、この計画の中に含めておかないと実施できないような縛りは考えておりませんが、基本的には、登載されるべき、あるいは、概括されるべきであろうと思っております。

松塚副会長（宇陀市商工会、宇陀市観光協会）：今回の場合は、抜けていたとしても、新市長が選ばれ、その市長の方針によって、まだ追加はできるわけですね。

事務局：はい。

松塚副会長（宇陀市商工会、宇陀市観光協会）：第 1 次計画のときには、登載されなければできなかったので、大きな範囲で実行されましたが、今回の計画はそこまで厳しくはないということで理解しました。これから、その辺りを討議していきたいと思います。よろしくお願いします。

伊藤会長（奈良県立大学）：ただ、事務局説明にあったように、総合計画と整合性がない、相反する施策は実施できないことは、ご留意いただきたいと思います。

松塚副会長（宇陀市商工会、宇陀市観光協会）：ということは、まったく斬新的なことをやろうとしたら、できないということですか。

伊藤会長（奈良県立大学）：いいえ、そういう意味ではありません。斬新的なアイデアの計画であっても、上位計画と方向が違わず、大きなまちづくりの方針の下、その方針を実現するために、新しいアイデアを出すことは、可能です。事務局、そういう理解でよろしいですか。

事務局：はい。

中野委員（宇陀市社会福祉協議会）：私はこの計画に参画するのは初めてなので、わかりにくいところもあります。宇陀市で長らく仕事をしているため、そのような観点から申し上げます。高齢者関係の仕事をしていますが、宇陀市の人口減少を非常に強く感じています。奈良県内の他地域、例えば、橿原市、奈良市の人たちも、いろんな問題を感じておられますが、この人口減少については、頭では理解していても、実感としてはお持ちになっていないようです。

例えば、高齢者の方がたくさん増えてくると言われていますが、この宇陀市は、日本の将来を一歩先んじて経験しているように感じます。高齢化対策の先進的な取組みを見る機会はなかなかないので、宇陀市が先進地として、まちづくりを進めていかなければいけないと思っております。

市民の皆さまとお話しさせていただくと、例えば、インフラ問題等、生活がしにくいとおっしゃる方が多くおられます。それに対して、行政も必死に対応されています。しかし、実際に考えてみると、それが本当のニーズなのかと感じてしまいます。行政は市民のためのものなので、その意見をないがしろにはできません。

もう少し広い目で見て、街部から魅力ある宇陀市をアピールして、他地域から市民になっていただく施策に力を入れることが、何か 1 つの光になるのではないかと、日頃、考えております。それなら、具体的にはどうすればいいかというのは、わかりませんが。

藤村委員（宇陀市女性の会）：こういう場は初めてなので、難しいことはわかりません。結婚して 40 年ですが、変わったことと言えば、家の周りがほとんど荒れ地になってしまい、寂しく思っております。宇陀市女性の会でも、もっと女性が活躍できるように、他市町村の研修等に行かせてもらいましたが、やはり行政のアドバイスがなければ、なかなか実現は難しいのではないかと思っております。

三本木委員（宇陀市森林組合）：総合計画なので、総合的にいろんなことを網羅して出していかないと、後々、実施段階で計画にないからできないというのでは、困ります。その反面、実施計画が総合計画に振り回されて、多方面に平均的なものばかりを狙っていくと、他の自治体と変わらず、金太郎飴みたいになって、宇陀市の特性が出てきません。

日本中で困っていると思いますが、少子高齢化で高齢者が増えています。それはもう社会現象の一つで、宇陀市だけで頑張っても仕方がない面もあると思います。努力はしないといけないでしょうが、その現実を受け止めて、例えば、若者を誘致するだけでなく、歩いたり、運動したりしている、元気な高齢者がたくさんいるわけなので、そのパワーをもう少し活用したほうがいいと思います。生産性革命として、そういうエネルギーを回していただけないでしょうか。今、私は一次産業の林業で生産に携わっていますが、今までの経験豊富な高齢者の力の活用を行っています。

政策的に細かい議論まではいかないとは思いますが、もっと具体性と実現性のある戦略を、これから検討していけたらいいのではないかと思っています。

丸岡委員（宇陀市人権教育推進協議会）：私は宇陀市人権教育推進協議会から参加しています。私どもの会では、人権が尊重された、心豊かなまちづくりということで、取組みを進めています。第 1 次総合計画の中では、どのように人権が尊重された計画づくりがされていたのかを振り返ってみたいと思っています。

その上で、新たな課題として、例えば、LGBT や DV の問題等も生まれています。それから、部落差別の問題もいまだに改善されていないことが、宇陀市のアンケート結果として出ています。この辺りをどのように、これからの計画に上乗せしていくかについても、見ていきたいと思っています。

森井委員（宇陀市民生児童委員連合会）：私も初めて、この会議に出させてもらっているので、まだ理解できない部分が多々あります。仕事柄・役柄として、お年寄りを訪問したとき、いちばん言われるのが、交通機関の問題です。買い物に行きたくても行けない、買い物難民と言われる方が多くなっている現状があります。

また、子どもが少なくなっていて、今年も何カ月か健診業務に参加していましたが、156 人しか

いないと聞いたので、もう少し若い人が住みやすくて、働く場所もあるようにしないと、子どもも増えないと思います。

奥本委員（宇陀市連合自治会）：何年か前に、大阪へ通勤するのに、榛原と名張のどちらに住みたいかと息子に話をしたら、断然、名張という回答でした。なぜかと聞くと、買い物施設や外食する店もたくさんあり、子ども向けの病院もそれなりにきちんと整っているからということでした。榛原のほうが、大阪への通勤時間が短くて便利だけれども、それでも、やはり名張に住みたいと答え、デメリットは、近畿地方でなくなるだけと言われました。

若者を定住させる施策を第一に考えていただきたいと思います。榛原とか、宅地開発を真剣にやったら、もっとできるのではないかと思うのに、なぜ駅前はさびれたまま、開発できないのかと、ずっと思っています。人口増となれば、もっと榛原のまちにも、店も病院もできるようになるので、人口増のために若者定住が第一ではないかと思っています。

泉岡委員（宇陀市老人クラブ連合会）：少子高齢化時代となって、先ほど女性の委員が言われたように、買い物や病院などに行くのに困ります。大都市で大きな事故が出た場合にだけ、テレビのニュース等で、高齢者の運転がどうこうという話が出てきていますが、田舎においては、接触事故等が多いように思います。交通手段の問題が一つ、そして、身近に買い物ができる場所があったらいいのではないかと思います。

それと同時に、宇陀市が「健幸都市」をスローガンに掲げているからには、健康面で言えば、病院関係の問題があります。医師も高齢化してきて辞めた方もおられ、また、電車・バスを乗り継いで行くのが大変なので、身近に利用できるバス路線を充実させていただければ、幸いに思います。

山浦委員（宇陀市 PTA 協議会）：私もこういう場に出席するのは、初めてです。今日、初めて資料を見たので、総合計画に関する話ではないかもしれませんが、PTA 協議会の立場から発言いたします。

今年度の７月に、宇陀市の給食センター協議会の会合に出席し、会長も務めました。異物混入の問題とか、かなり給食センターの老朽化に伴って、いろいろと突き上げを受けたという給食センターの所長も出席されていました。限られた予算と時間の中で、一生懸命にやっていただいているとお聞きしました。

この 12 月に東京で開催された、第 12 回の全国学校給食甲子園に全国 46 都道府県が参加され、食品会社が主催・協賛されていることも初めて知りました。参加校も年々増えていき、初回はほんの数校でしたが、今回はほぼ日本全国から、何千という市町村から参加の申し込みがされ、代表として 46 都道府県から 146 校が出場しました。宇陀市の給食センターが準優勝になり、全国区のテレビでも 2 回ほど放映されました。各校 2 人ずつで、宇陀市の給食センターから女性 2 人が参加され、泣いて喜んでおられる一方で、悔し泣きをされている学校もありました。

こういう食育というのは大事で、学校教育に置き換えて考えてみます。うちの息子や娘に聞いたら、そんな大会があるとは聞いていないというので、学校で発表したほうがいいと思います。私は PTA 協議会として、中学校 2 校と小学校 1 校で発表させてもらいましたが、ものすごく知らない方が多くて、話を聞かれたお母さんたちは非常に喜んだり、感激されたりしていました。

給食には、異物混入の問題もあったようですが、食育の取組みもされて、給食センターも頑張っているという話でした。

伊藤会長（奈良県立大学）：とてもいい話をありがとうございます。学校給食は、子育てにとって

はありがたいもので、子どもたちがその話を聞けば、自分たちのまちに誇りを持てると思います。

寺澤委員（宇陀市教育委員会）：出生数が 140 名ほどという状況が続いているため、中学校も小学校も、あと 10 年もすれば、1、2 校くらいが適正数となるようです。そこで、宇陀市の地形・地勢、あるいは、交通機関を考えたときには、インフラ整備や学校の配置、校区の見直しも含めて、大胆に取り組んでいかなければいけないと思います。

もう 1 つ、荒れ地や遊休農地がたくさん増えていますが、視点を変えてみれば、非常にプラスの資産・資源になる場合もあるわけです。そうした発想の転換の中で、農林業等の新しい企画・アイデアを生み、商業化して、宇陀からどのように情報発信をして、成功を収めていくかという魅力や希望もあると思います。

第 1 次計画も非常に整っていたと思いますが、新しい第 2 次総合計画では、ある種、外面砕きもしながら、展望を確かにできるようなものが、しっかりとできたらいいという思いもします。

梶本委員（宇陀市都市計画審議会）：今、インフラ整備等の話が出ましたが、それを審議する立場の都市計画審議会から代表として参加しています。インフラ整備が本当に必要なのかどうか、これから財政力等をいろいろと考えたときに、必要なものは必要ですが、まだ少し待てるものは待つ、やめるものはやめるという、メリハリをつけて整備していく必要があると思っています。

第 2 次総合計画の中で、人口 2 万 3,000 人を目指しておられるのかどうか、まちづくりとして、どういうビジョンを捉えているのか、見えるような計画にしてもらいたいという希望があります。次第に人口が減少していく中で、今、国交省でも、コンパクトシティというキーワードが掲げられています。まちづくりとしては、本当に緊急的に迫られている問題に注力すべきで、手広くする時代は過ぎているのではないでしょうか。

皆さまが言われているように、人口減少はもう止めようがないわけで、いかに遅らせるかという話になってくると思います。そうなればなるほど、住みよいまちづくりをしようと思えば、これからの 12 年の長さを考えたときには、手短な所で、買い物できて、公共施設や病院もあるというコンパクトなまちづくりを加味した計画にしてもらいたいと思います。

それから、第 1 次総合計画は 10 カ年で、資料にあるとおり、各項目について ABCD 評価がなされています。A 評価なら達成できた、D 評価なら未達成、だから達成できるようにしようという流れになっています。しかし、達成できたから、それでよしとするのではなく、無駄なことをしたのではないか等、反省もしたほうがいいと思っています。未達成でも、本当はしなければならなかった案件もあったかもしれません。この辺りをフィードバックして、今後の計画に生かしてもらいたいと思っています。

先ほどから言われているように、活気のある宇陀市にしてもらいたいのです。計画書とかによく使われる「宇陀力」という文言があります。勉強不足で申し訳ないですが、「宇陀力」とは何かという疑問もあります。もう少し具体的な計画に、基本構想・基本計画と言っても、宇陀市の独特のカラー、宇陀市らしさを出すような計画にしてもらいたいと思っています。どこへ持っていっても通用する汎用的な計画ではなく、「宇陀力」とはどういうもので、どのように活用し、どういう方向を目指すのか、具体的に見えるような計画に、皆さまと議論しながら進めていけたらいいと思っています。

伊藤会長（奈良県立大学）：今日は審議会の 1 回目なので、今後、またご意見をお願いします。

下村委員（宇陀市農業委員会）：前回の会議のときにも委員に入れてもらいました。遊休農地が多

いという話がにわかに言われていて、国からも多いということで、今回、農水省から指示があり、法律がかなり変わりました。

私は連合自治会長もしていますが、農業委員と推進委員が区別されることになりました。農業委員は審議をする立場で、推進委員は地元の荒れた土地を県に借りてもらったり、借り手を探したり、自分たちの地域で土地を集めて協同で使ったり等、どういう形でもいいので、各地域の委員が遊休農地をなくしていく仕事をしてもらうようになりました。来年 7 月に委員会を行います。各地域の委員はかなり厳しいかもしれませんが、地域事情に合った仕事をすることになります。

過去には、法律的に、農地を持つ場合には、50 アール以上を持つようにしないと 1 アールも農地を持てませんでした。例えば、祖父から 30 アールを相続した場合には、あと 20 アールを買えば 50 アールなるので、20 アールだけ買うことができたのですが、農地を全く持っていない場合には、50 アールを買わなければならなかったのです。

今までは、市長・知事が決めていましたが、各農業委員会で基準を下げてもいいという法律ができました。宇陀市の場合、竹内市長が農地だけでなく、土地も一緒に買ってくれるなら売るという条件付きで、買える面積を 10 アールまで下げた。今回、特例として、過疎地域に限って、農地を買う場合、1 アールでも構わないという法律もできました。農地だけでなく、土地も一緒に買ってくれるなら売るという話にも乗ってもらいやすくなるはずなので、入ってくる人口も増えると思います。

宇陀市には、毎月 1、2 名の新規就農者がいます。農業の仕方については、ご存じかわかりませんが、平群の中尾さんが農業の天皇杯をもらいました。平群の皆さまの努力のおかげもあり、菊の産地として知名度が上がったことも表彰された理由かもしれません。宇陀市に適したものをつくり、その産地として売り込むことも考えていただけたら、空き地も荒れ地も解消されるのではないかと思います。

辻本委員（奈良テレビ（株））：私は、宇陀市には住んでいない外部委員です。今、言われた遊休農地等の話も含めて、疑問に感じたことをお話しいたします。今日は車で、奈良から大和高原、福住 IC から真っすぐ降りて来ました。至る所に山を削って、太陽光発電システムが設置されています。宇陀市の場合、前回の評価では、設置補助事業が A となっていて、いわゆる、クリーンエネルギーを活用する事業として、事業計画進行表の第 1 章「自然と共生した快適に暮らせるまち」の最初に挙げられています。

方向性としてクリーンエネルギーをつくっていくのは、まさに正しいのですが、そのために山が削られている、それも雑木林的な山が削られ、針葉樹のスギ・ヒノキの山では行われていません。近鉄電車に乗って、伊勢市に行っても、あちこちに太陽光発電のソーラーパネルが遊休農地を潰して置いてあります。自然環境の保全という観点で、クリーンエネルギーをつくるのは、産業構造上、正しいのか、間違っているのかという思いを持ちながら、今日、実は宇陀市にやって来ました。

私の実家は桜井市の隣で農業を営んでおりますが、山を潰したり、遊休農地を太陽光発電に転換したりすることによって、イノシシやシカなどの鳥獣が食べるものがなくなって、里まで出てくるわけです。そういう問題点等を含めて考えたときに、施策体系をどう作り、どう位置づけていくのかは、ある意味、大きな問題点だろうと思います。まちづくりの基本方針等の詰め方を、今までとは違う方向で考えていかざるを得ないと思うので、施策選択の議論の中で、きちんと議論していくべきではないでしょうか。よろしくお願いします。

今中委員（（株）南都銀行榛原支店）：先ほどからインフラ整備等の話が出ていますが、インフラの中でも、システムインフラを重要視していかなければいけない時代になってくると思っています。特に、AI（人工知能）とか、IoT（Internet of Thing・モノのインターネット）とか、ものすごいスピードで技術革新がなされ、これからもさらに進んでいく時代になっています。行政側も、状況の変化を敏感に察知しながら、システムを導入すべきかどうかという議論も深めていかなければならない時代になっていくと思っています。

小松委員（市民委員）：なかなか資料を見きれていないのですが、人口が今後減っていくことを危惧するのであれば、人口増によって住みたいまちにする必要があります。どうしたら移住・定住してくれるのかを考えてみると、宇陀のよさを生かした農業、林業等、もともと存在する生産基盤を生かして、何かできないかということです。

その 1 つとして、最近、森の幼稚園ということがよく言われています。子どもたちを土のある場所で育てたい、もっと自然に恵まれた環境でいろいろな体験をさせたい等、そういう家庭の方が増えてきています。これは絶対に都会ではできないので、農業等の宇陀にある環境が使えるのではないかと感じました。

私の主人が農業を営んでいるので、特に感じるのは、先ほども高齢者が活躍する場所を設けてほしいという話が出ていました。会社員の人は定年が来たら終わりですが、農家の人は死ぬまで農業に従事していて、60 歳、65 歳でも、現役バリバリです。高齢者の活躍の場としては、農業や子育ての場で、何か役立つ仕事があるのではないかとも思いました。

西田委員（市民委員）：私は広告代理店に 38 年間勤め、定年退職後、宇陀の夢想の里でボランティアを 3 年間しています。来年 65 歳になるため、もう一度、宇陀市のために少しでも、何か協力できたらと思い、公募の論文を出しました。

会議の通知をもらってから少し時間があったので、何が問題なのかを考えてみました。今、宇陀市の直近の問題は、過疎問題ではないかと思っています。人がいなければ、お金も何も入ってこないので、人を集め、賑わうことが第一条件ではないでしょうか。

2 つ目は、最近、閣議決定された、森林環境税が 2024 年度から導入されます。吉野地域もそうですが、特に宇陀市は、山がほとんどを占めています。その森林をどう生かしていくか、導入前の企画・計画、そして、イベント等を考えてみたら、どうでしょうか。そこで考えたのが、川という字に、一を足せば、山という字になります。そこから、「山と川は一つ」という言葉を考えました。要は、芳野川と室生川が、宇陀川、名張川、木津川、さらに、淀川まで繋がっています。昔の人は、上流の人は、下流の人が水を使うことを考えながら、水を大事にしてきました。その広域面積を占める流域の地区で、いろいろなフォーラム等を法制化のプレ期間として考えて、森林環境税が導入されたときには、真っ先に宇陀モデルみたいなものをきちんと出せたら、いいのではないかと考えています。

3 つ目は、当審議会の場は、決議の場であるように思って、参加しています。物事というのは、人と対話を重ねるうちに、ヒントなり、アイデアなりが浮かんでくるわけで、できれば、もう少し小さなワーキンググループを設けて、討議できればと考えています。また、税金の無駄遣いみたいなことになってしまうかもしれないので、お金をかけずに部会を進めていくのもいいのではないかと個人的には思っています。

原委員（市民委員）：今回、初めてこのような大きな会合の場に参加しました。事務局の説明にあっ

たように、宇陀市の特性のまとめは、特性というより、問題点のまとめになっています。特性なので、何かいいことが1つでもあれば、知りたいと思いました。

それから、この問題点から課題を抽出して、今後、理念・施策に反映させていくわけです。やはり市民が施策に対して、職員・行政の視点で A 評価をつけていますが、それは業務上の成否であって、その施策によって、市民が恩恵を受けたかどうかという評価が一切なされていません。これでは、市民としてモチベーションが下がります。

私も宇陀市へは、バブル時代に移ってきて、それから四半世紀が過ぎています。大阪で働いて、税金だけは宇陀市で払うため、当時は奈良府民と嫌味たらしく言われました。これからは終の棲家として、宇陀市のために、今まで培ったスキル・ノウハウを活用できたらと思い、応募いたしました。

この特性・問題点は、全国どこでも同じです。今後、策定委員の方が、ものすごく複雑で多岐にわたり網羅した施策を制定するわけです。その施策を見て思ったのは、アンケート結果を見て回答したように、私はいろいろなことに自信を持っていますが、あのアンケートを見ても、結局、本質的に何がよかったのか、わからないのです。

したがって、もっとプライオリティと言うか、もっと施策に対して、今回は12年という長いようで短い期間が設定されているので、施策に対して優先順位をつけるとともに、業務をこなしたかどうかという定性的な評価ではなく、施策がどのような結果になったかという定量的な評価がわかるようにしてもらいたいと思います。

それがわかったら、各施策がこれからの 4 年刻みの期間に対して、行政も市民も、より次の段階に進むモチベーションの向上に繋がっていくと思います。それがない限り、何か業務をこなしているだけのようになってしまうので、目に見えるかたちで評価できないのであれば、悔やまれてしまいます。これから短期間で行われる策定委員会では、かなり網羅された仕事をされますが、それなら、優先順位をつけた上で、市民に対して、どのような影響を及ぼすかを考えて、施策の策定をしてほしいと思います。

最後にもう 1 つ、問題点のまとめについて、全国いろいろな都市が経験している現状があるわけです。これらの問題点から課題を抽出して、その課題に対して、どんな取組み方をしたから、どんな進展があったというベストプラクティスを探った上で検討していただけたら、より効果が出るのではないでしょうか。網羅することも大事ですが、1 つでも 2 つでも少なくてもいいので、市民生活にいい影響が及ぶような施策を策定してほしいと思います。

伊藤会長（奈良県立大学）：短時間でしたが、皆さまから率直で現実的なご意見をたくさん頂き、検討すべきご意見もたくさんあったように思います。

私も皆さまのご意見をお聞きして、共通している大事なことをまとめてみたいと思います。この総合計画審議会で皆さまが集まって、いろいろと知恵を出し、意見を出していただくわけです。前の10年と今後12年（4年サイクルを3回）の中で考えていくときに、今後12年の間には、もっと新しい問題がたくさん出てくると思います。

先ほど言われた、IoT の問題は、都市圏・地方圏を問わず、IoT どころか、今度は IoE（Internet of Everything）という、すべてのモノがインターネットに繋がっていく時代になってきます。そのため、都市住民も地方住民も全部に関わってくるので、課題の中に入ってくると思います。

それから、先ほど見える化ができていないため、よくわからないというご意見がありました。当

審議会の中で、住民にとって施策の結果・成果がよくわかるようにしてほしいというご要望が強かったようなので、今後、さらに皆さまからご意見をいただければと思います。

そして、最後に言われていた、宇陀市の特性が課題であるというご意見です。特性の中でも、よいほうの特徴と言うか、強みみたいなものを抽出して、さらによくしていけば、人が減らずとも、増えるかもしれないという気もしました。

また、施策については、資料の中にも ABCD 評価が出ていますが、A だから本当によかったのかという疑問が出されました。予定どおりにこなしたからよかったのか、状況はどんどん変化しているので、途中で見直しをしなければなりません。そのためには、質的な評価だけではなく、量的な評価によって、宇陀市民にとって施策効果があったのかどうか、きちんと評価する仕組みが必要ということでした。

その仕組みに関して言うと、先ほど言われたように、公共施設にはハード面のインフラはありますが、これからはどんどんネット社会になっていき、ソフト面のシステムインフラが住民生活にも大きな影響を与えてくると思うので、これに関しても考えたらどうかという話でした。そして、少子高齢化については、多くの方からご意見をいただきました。

要するに、総合計画は、宇陀市の住民生活にとって、いい成果が出るような計画にすべきということです。私は宇陀市の住民ではないですが、どの自治体でも同じです。宇陀は宇陀で、自然に恵まれた中で豊かに生活できる条件として、何が必要なのかを考えていくことだと思います。

まだ会議の時間が残っているので、さらに言い忘れたとか、言いたいことがある方がおられたら、どうぞお願いいたします。資料を読み込む時間がなかったので、次回までにまた十分に資料をご覧いただき、次回、ご意見を賜れればと思います。あるいは、資料の最後に事務局の連絡先が載っているので、電話・FAX・メール等で、次回の委員会までに、こんな情報・資料が欲しい等、ご意見・ご要望をお寄せいただければと思います。特にご意見等はございませんか。

宇陀市が合併して約 10 年が経ち、第 2 次総合計画をつくろうというわけです。今までに積み残した課題もあり、これから出てくる新しい課題もあり、これからの 12 年、このまちをどのように作っていくのか、皆さまの知恵をお借りして、総合計画を作っていければと思います。どうぞ、忌憚のないご意見をお願いいたします。特に、ご意見がないようなので、事務局に進行をお戻しいたします。

事務局：会長ならびに委員の皆さま方、誠にありがとうございました。先ほど会長が言われたように、本日の資料について、ご不明な点等があれば、資料の最後に事務局の連絡先を書かせていただいているので、何なりとお申しつけいただき、ご質問も頂戴したいと思っております。

先ほど副市長からもお叱りを頂戴しましたが、資料を先にお渡ししておくべきであったことをお詫び申し上げます。どうぞ、この場ではご容赦いただきたいと思います。会議の冒頭、たいへん緊張していたため、紹介を忘れていましたが、この総合計画を策定するにあたり、ご協力を頂戴しているコンサルタント会社の 4 名が同席しております。これについても、お詫び申し上げます。

非常にタイトなスケジュールとなっていますが、先ほど担当からお話しいたしたように、今年度は今日を含めて 2 回のうち、2 回目の審議会は、3 月 20 日（火）13：00～15：00 を予定しております。ぜひ万障お繰り合わせの上、ご出席を賜りたいと思います。

たいへん長い時間、ありがとうございました。以上をもって、本日の第 1 回目の審議会を終了させていただきたいと思います。

伊藤会長（奈良県立大学）：先ほど提案されたように、みんなで議論するとなかなかまとまらないので、テーマごとに小グループに分かれて議論をして、最後に全体で集まって、どのグループからどんな意見が出たというあり方も、できれば考えていただければと思います。
事務局：はい。ワーキンググループのように、小規模で集まっていただく機会も、できれば設けさせていただきたいと思うので、その節はどうぞご協力をお願いいたします。
原委員（公募委員）：総合計画を審議する場なので、みんな一緒に議論したほうがいいのではないでしょうか。あまり、分野に分かれて審議するのは、時間がかかります。
伊藤会長（奈良県立大学）：そうではなくて、最初だけ分かれて議論をして、最後に集まって、意見を共有していく流れです。その辺り、工夫をしていただければと思います。
事務局：体系的な整理ができれば、その部会を設けた上でご議論いただきたいと思います。
原委員（公募委員）：計画そのものの策定スケジュールは、どうなっているのでしょうか。
伊藤会長（奈良県立大学）：資料に載っています。
原委員（公募委員）：3 月 20 日の審議会が、どういう位置づけなのか、そもそも審議ができる状況なのでしょうか。
事務局：3 月 20 日の 2 回目の審議会までに、どの辺りまでスケジュールが進んで、2 回目の審議会に集まって、何をするのかということですか。
原委員（公募委員）：後ほどで構わないので、先ほど言われたように、みんなで審議したほうがいいのかも含めて、よくわからないので、ベクトル合わせをお願いします。
事務局：はい。

閉会　１５：４２